

2023年度のマルファンクション付与訓練の試行について

1. 昨年度マルファンクション訓練の改善事項

昨年度、四国電力殿が試行したマルファンクション付与訓練において、以下の3点の改善事項が挙げられた。

- ① 現場実動訓練への直接付与
- ② 関係個所（緊対所等）との連携の追加
- ③ より詳細なマルファンクションの検討（対象訓練に応じた付与数、内容及び考案者と付与者の認識合わせ、付与者の訓練内容現場熟知）

2023年度は、この3点の改善事項を反映した訓練を試行する。

2. 2023年度の訓練試行の方針

《共通事項》

- マルファンクション付与については、指揮者及び現場実動指揮者に直接付与を行う。
- マルファンクション付与訓練は、緊対所等と現場が連携する実動訓練（要素訓練）にて実施する。
- 上記①について、指揮者及び現場実動指揮者に直接付与を行うことにより、訓練効果の向上が得られるか、訓練の進行に影響を与えないか等を確認する。
- 上記②について、マルファンクションによる不具合事象等の対処（連携）範囲が増えることにより、訓練効果（臨機な対応）の向上が得られるかを確認する。
- 上記③については、マルファンクション選定の際に考慮することとする。
- マルファンクションの幅を広げるため、北海道電力と日本原子力発電で異なる訓練（ ）で試行を実施する。

《日本原子力発電》

- 12月中旬に予定している東海第二発電所の要素訓練にて実施する（ を予定）。
- マルファンクションを指揮者及び現場実動指揮者に直接付与することについて、東海第二発電所の要素訓練で得られた知見を北海道電力に共有する。

《北海道電力》

- 2024年2～3月頃の要素訓練での実施を検討中（ を予定）。
- マルファンクションを指揮者及び現場実動指揮者に直接付与することについて、東海第二発電所の要素訓練で得られた知見を活用して実施する。

訓練情報を含むため、マスキング実施

以 上